## 事務事業評価&総合計画実施計画調査シート

	コード		名	称		区分	コード		名	称				
事業名	659	生 产 餌 敕 :	推進対策事業			会計	01	一般会計						
尹未口	00	工注则走	性性以水中未			款	06	農林業費						
基本	43	(4) カロップラン	────────────────────────────────────					農業費						
施策	7	げ貝ノノノ	/10/川胆を同め	у, эсэ ш 9		目	04	農業生産対策費						
施策	4	古付加価	値化の推進	(Vの性)生		細目	101	生産調整推進	対策事業					
ルス	4	回川川川		細々目	01	生産調整推進対策事業								
基本	計画該	当頁		159	行	革大綱の	の重点	点事項番号		1 · 4				
担当部課	コード	7 5 3 5 0 0		5 0 0	言	[価者		上田 賢博	連絡先	52 -	3220			
가는 그 마마자	名称		青山支所	産業建設課	E	氏 名		上田 貝符	连桁九	(内線)	216			

事美	iの計画·内容												
	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)											
事業目的	有機栽培米、減農薬栽培米の栽培農家数並びに栽培面 積 水稲栽培農家 区、土地改良区、営農組合等団体 (対象件数 31名 )	無農薬、減農薬による安心・安全な米づくりの進展と組織強化になる。 伊賀米コシヒカリの品質向上とブランド化が進む。 地域農業活動が推進される。											
根	拠法令·要綱等 伊賀市補助金等交付規則												
	開始年度 平成 17 年度 関連事業												
終	· <b>「 年 度                                   </b>												
本年度事業内容	JA伊賀南部無農薬米生産部会が実施する研修会開催、 費者との交流会開催など有機栽培·減農薬米栽培の推進に する活動への助成 コシヒカリ種子更新農家に対し、種子購入や苗購入の費用 の5%を助成 区、水利組合等が実施する土地改良施設等の適正な維持 管理を行うために実施する、水路の堆積土砂排除、農道等の の植栽などの事業に要する費用に助成(20万円以内)	関											

整備内容 1 建設用地 2 建設面積(延床面積) 3 規模·構造 4 総事業費

海学丛生

建百体制			
1 運営主体	宣直	指定管理	民間委託等
委託先			
2 配置(予定)人員	-		人
3 年間運営費			千円
4 市内の類似施設			

単独 事業類型 ソフト事業 事業種別 継続

事業実績

活動指標	単位	実	績値	目標値				
/立到/11/15	半世	H17	H18	H19	H20			
普及·宣伝活動		目標	目標不明	2	2			
自及`草瓜泊勤	Щ	実績 不明	実績不明	2	2			
種子更新農家数	=	目標	目標 350	廃止	廃止			
性 丁史利 長		実績 336	353	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<b>冼</b> 工			
土地改良施設等適正管理に向けた事業実	件	目標	目標 5	廃止	廃止			
施団体件数	IT	実績 !	実績 5	<b>廃</b> 止	<b>廃</b> 工			

2次評価対象分

評価指標

I	事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位		実終	目標	票値			
L	争業の成果を思る指標	日保政との考えり	丰世		H17		H18	H19	H20	
Ī	部会農家数、作付面積	普及度合い	戸、ha	目標		目標		31, 3,98	31, 3,98	
ı	<b>心女辰豕奴、[F]] 画慎</b>	自以反口い	, π. πα	実績	31, 3.96	実績	31、3.96	31, 3.90	31, 3.90	
ſ	面積、 取り組み団体数	普及度合い	ha.	目標	163, 5	目標	220, 5	廃止	廃止	
L	国領、取り組の国体数	百尺反口い	件	実績	163, 5	実績	200, 5	<b>廃</b> 止	<b>廃</b> 止	

評価		
評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	伊賀産農産物の安心・安全性を訴える宣伝ができるため、当該団体への支援は必要である。 伊賀米定義に種子更新が必要条件であることから必要性が無〈なった。 集落営農のない集落にあって、営農組織の推進にもつながり必要である。
有効性	4	有機・減農薬栽培米の作付け農家の維持、普及拡大に係る経費の軽減につながる。 伊賀米コシヒカリのブランド化に向けて作付け拡大に効果があった。 農村におけるコミュニティの再構築、活動の継続面で効果があった。
達成度	3	平成19年度から補助を再開するため現時点で計れない。 栽培面積の拡大に成果があった。 事業実施時においての管理体制が確立されたが、今後の継続面に課題を残した。
効率性	3	本年度から再開するため、今後実施内容を点検し、補助部分を特定する必要がある。 伊賀米定義によると種子更新が必須条件であるため補助を打ち切った。 類似事業(市単土地改良事業)へシフトする。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	縮小	現在、有機栽培・減農薬栽培を団地的に栽培しているのは青山の一部地域だけであるが、安全で安心な食に対する消費者の要求は高まっており、市全域で取り組むへ(支援策を検討する必要がある。 及び については、上記のとおり廃止とした。

	年度								決算内				決算内				度 計画内:	容			計画内容		平成2			容	平成2			
	十皮					事業	≰内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額	事 業 内	容数量	量単位	金額	事 業 内 容	数量	単位 金額	事	業内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額
捗	委託 〈				事業内容		À.			(千円 1,810	補助金			(千円) 1,603	補助金			(千円) 100	補助金		(千円 10	0 補助3	金			(千円) 100	補助金			(千円) 100
(%						事業引	計(A)			1,810	事業費計(A)			1,603	事業費計(/	A)		100	事業費計(A)		10	0 事業	貴計(A)			100	事業費計(A)			100
		事業投	入人員	l	•	人件到		0.3	人		人件費(B)	0.3	人		<b>人件費</b> (B)		1 人	ì	人件費(B)	0.1		0 人件		0.1	人	720	人件費(B)	0.1	人	720
	7,1	レコスト	(A)-	+ (B)						3.970				3,763	_	<del></del> -	_	820	·		82	0	-			820				820

喜業費(人件費除く)の財源内訳

T T	寅(入什寅休\)の別郷内訳						
( A )	事業費	1,810	1,603	100	100	100	100
	国庫支出金						
A	県 支 出 金						
財	地方債						
河	受益者負担						
内	そ の 他						
訳	一 般 財 源	1,810	1,603	100	100	100	100
н/ \	計	1,810	1,603	100	100	100	100
1佣	その他特定財源の名称・補助基本額・ 率 地方債の区分と充当率等						